

ふれあいボランティア活動 感想文集



平成 30 年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

平成三十年度ふれあいボランティア活動感想文集

発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていくこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていくこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する「ふれあいボランティア体験学習」の中で人とふれあって行うボランティア体験活動のこと。以下、活動という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。当センターは、その活動を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポートという）」を学校や団体に提供しています。

改訂された新学習指導要領では、社会との連携及び協働により、子どもたちの「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を図っていくとし、その中で、「主体的・対話的で深い学び」を重要視しています。

当センターが提唱する「ふれあいボランティア体験学習」においては、自ら興味・関心のある社会の課題を見つけ、

「なぜ」その課題が起っているのか、そして、「どうしたら」その課題を解決できるか、「探究」し、課題の解決に向けて地域社会の人々とふれあい、気持ちに寄り添いながら、活動に取り組む過程で、「主体的・対話的で深い学び」を実践することができると考えています。

そして、その感想、得た考えをふれあいパスポートの感想欄に書いて振り返り、更に、ふれあいボランティア活動感想文にまとめて振り返ることで、その深い学びをより確かなものとして定着させることができると考えています。

それは、同時に「生きる力」の根幹である「人間力（「自助の力」と「共助の力」）を児童・生徒が自ら育むことにながらるものと思っています。

ふれあいボランティアパスポート参加校、参加団体の指導者の皆様には、ふれあいボランティア体験学習、そして感想文への応募を積極的に奨励していただきたいと思っています。何卒、よろしく願っています。

平成三十年三月一日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長

有馬正史

ふれあいボランティアバスポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。ダウンロードできます。（URL：<http://www.ssc-npo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数532点（小学校13校・1団体410点、中学校2校
8点、高校3校114点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

清水 健太さん

【小学生賞】（7人）

鹿児島県南九州市立中福良小学校1年

木佐貫 月さん

青森県弘前市岩木児童センター 小学校3年

喜多山 こころさん

千葉県栄町立布鎌小学校3年

芳澤 蒼真さん

千葉県栄町立安食小学校4年

羽田 航さん

千葉県栄町立安食台小学校5年

帯金 弘さん

福岡県大牟田市立中友小学校5年

森 桜咲さん

鹿児島県南九州市立中福良小学校6年

村方 仁美さん

【中学生賞】（3人）

千葉県栄町立栄中学校1年

竹原 花仲さん

千葉県栄町立栄中学校2年

泉原 心菜さん

東京都世田谷区立用賀中学校3年

伊藤 日和さん

【高校生賞】（3人）

大分県立佐伯豊南高等学校2年

鳴海 孝吾さん

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

針生 夢生さん

東京都立稔ヶ丘高等学校3年

山内 麻央さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

認定JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

日本教育新聞社

編集局局長 矢吹 正徳氏

後援

日本教育新聞社

講評

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長

大賞の君に想う

認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表、

脚本家 小山内 美江子

「子ども食堂」というネーミングを、新聞紙上などで見かけるようになったのは、私自身にとって一年ほど前からで、一方、貧困と子どもという社会問題もとり上げられていたが、「豊かなる日本」という幻想に捉われて、それほど切羽詰まった思いにはなっていなかった。

常々、物を書く時、現わす時に頭の中だけではなく、現場に行くこと、見ることを主張して来たのに、今回は大賞に選ばれた清水君にポン！と頭を叩かれた思いである。

これを油断というのだろうか、彼はボランティアとして地域の子ども食堂にかかわるうちに、あらゆることに観察力と興味を育て養っていることを素直に書いていますが、料理だけでなく子どもとの接し方を毎回のボランティア活動の中で発見し、己れの考え方の基礎として育てている。これを生長というのでしょうか。

将来は、不登校の子や家庭に問題ありとされている私たちの支援をするスクールソーシャルワーカーを目指していると言っている。

頑張ってください。君ならもともと現在社会が抱えている問題を解決に近づける方法を、仲間と共に考えることができるすばらしい青年になれると思います。

受賞者のみなさんのボランティア活動は、年々多彩になってきており、大きな社会問題やテーマとなっている活動に取り組んでいる子どもたちが増えてきています。

ボランティア活動の場は、子どもたちが社会の問題に気づき、解決しようとして取り組む中で、人と関わり、人を巻き込み、多くのことを学ぶ貴重な体験の場であると思っています。

500人を超える、応募された皆さんのこれからの活

躍に期待しています。

◆選考委員

変わる自分に気づくボランティアの力

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

私は、ボランティア活動によって自分の気持ちや考え方の変化、変容などを素直に書いてくれている部分に注目して審査をしました。

多くの中学生や高校生にとっては、ボランティア活動そのものが「めんどくさい」ことであり、「はずかしい」こと。赤い羽根共同募金で、声を出して呼びかけることは、はずかしいの余り難しい事のようにでした。

しかし、一人でないことが勇気をもらえて、経験者がいることがまた心強いのですね。一見怖そうな方も募金をしてくれる、一度帰って戻ってきてくれる人もいる、世の中の温かさにふれることで、善意は様々な人で作られていることを実感する様子が語られ、お金のやり取りは実は気持ちのやり取りだとの気づきが得られたようです。

「めんどくさいこと」「はずかしいこと」と思われがちなことへのチャレンジが自分の成長につながると、変わっていく自分に気づくことは、ボランティアの力だと思えました。

小学生はさらに自分の気持ちや考え方の変化を素直に書いた感想文でした。キヤップ集めは小さいボランティアだけどみんなできれば大きいボランティアになる、みんなが喜んでくれると頑張った自分もうれしくなる、みんなを笑顔にすることが大事。からだだけでなくて心もぼかほかになった、してもらう方もする方もしあわせになる、相手の気持ちが始まらずは大事、できることを増やして人の役にたちたいなど、本質をついた感想に驚かされました。

ボランティアを通じて学んだ2つのこと

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

皆さんのボランティア活動の感想文をとても楽しく、また心あたたまる気持ちで読ませていただきました。皆さんの頑張った姿、成長する様子をたくさん見ることができてとても勇気づけられた思いでした。

皆さんは、このボランティア活動を通じて2つのことを学ばれたと感じました。

1つは、皆さんが書いていらしたような「人の役に立つことの喜び」です。自分がしたことでも人が喜んでくれる嬉しさを知ることが、人生の基本的な豊かさにつながると思っています。

もう1つは、「チャレンジすることの大切さ」です。皆さんは今回なにかのきっかけを得て活動に参加したことだと思いますが、そのきっかけがあっても実際に一歩踏み出せる人と踏み出せない人がいます。初めてのことや慣れていないことをするのは勇気がいることですが、皆さんはそこで一歩踏み出しました。そして結果として成長という果実を得ることが出来ました。これは大きな経験だったと思います。

今回の経験を忘れずに、ぜひこれからも人の役に立つ喜び、そしてチャレンジすることの大切さを心がけてください。皆さんのこれからの活躍を本当に楽しみにしています。

ボランティアに目覚める瞬間に立ち合う

日本教育新聞社編集局局長 矢吹 正徳

初めてのボランティア活動、あるいは何回目かのボランティア活動に取り組んでみての子どもたちの感想文を、毎回、楽しく読ませていただいています。

そこには活動に対する良いことも悪いことも含めて、子どもたちの率直な思いがこぼれています。みんなのために自発的に取り組む子もいれば、どんな意味があるのかと活動に懐疑的な気持ちで関わる子どももいます。

活動の領域、種類も千差万別です。

しかしながら、どんなきっかけであれ、実際に活動することによって、自分の思いや殻が破られ、他者や地域との交流によって感じる事柄が、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えているように思えます。

なにより、感想文を読むことによって、活動体験を通して1人のボランティアとして目覚めていくような瞬間に立ち合っている喜びを感じることが出来ます。

それは小学校低学年、中学年の子どもたちであっても、それまで興味があつたけれどきっかけに巡り会えず、初めてボランティア活動を体験する高校生であっても同じです。活動そのものがもたらす喜びを、子どもたち自身が感じることで、もっと活動してみたいという思いが、発達段階を超えて感想文から伝わってくるからです。

また、子どもたちにとっては、こうした感想文を書くことを通して、より自覚的なボランティアとして成長する機会となっているのでしょう。

将来、どんなボランティア活動に取り組むようになるのか、楽しみは広がるばかりです。

受賞作品*児童・生徒の原文に従って作成しています。

【ふれあいボランティア活動大賞】

子ども食堂での触れ合い

東京都立稔ヶ丘高等学校

3年生 清水 健太

私は月に一回地域の子ども食堂でボランティアをやっている。主な内容としては、料理を子ども達や、ボランティアの方と一緒に作ったり、子ども達の勉強を教えたり、話し相手になったりしています。私は主に子どもたちの話相手や、料理を子ども達と一緒に作ったりしています。最初は子ども達も警戒し、自分から話しかけてくれることはほぼなかったのですが、自分から話を振っていくうちに、打ち解けてくれ、お互いニックネームで呼ぶくらい仲良くなっていきました。

最初は私自身、子ども食堂の利用者側として子ども食堂を利用していました。高校二年生の頃から利用者という立場は変わらないものの、一ボランティアとしても参加するようになりました。一ボランティアとして参加するようになってからわかったことがあります。

それは、子ども一人一人を見る重要さです。子ども達

の性格、特長、趣味などは当然違うので、一人一人の子に合った対応の仕方をしなければなりません。子どもは傷つきやすいので、発言一つ一つに気をつけなければなりません。また、大人しくすごしたい子もいれば、みんなでワイワイ騒ぎたい子もいます。その子自身を見て、どのように話しかけたらいいのかなどを考えるのも重要だと学ぶことができました。

私は将来、不登校の子どもや、家庭に問題のある子ども達を支援するスクールソーシャルワーカーになりたいと考えています。また、行く行くは地域の居場所になるような場所を作りたいと考えています。まだまだ自分は未熟で学ぶべきこともたくさんあります。これから子ども食堂のボランティアを続けていきます。



【小学生賞】

キャップあつめ

鹿児島県南九州市立中福良小学校

1年 木佐貫 月

わたしのいえのだいどころには、ペットボトルのキャップをおくばしよがあります。わたしたちが、ペットボトルのジュースをのんだあと、おかあさんが中をあらって、キャップだけ、ふくろにいれます。ふくろがパンパンになったら、学校にもっていきます。

「るな、キャップをもっていきなさい。」

とおかあさんがいいました。

「はあい。」

わたしは、キャップのいっぱい入ったふくろをもって、学校にいきました。

学校で、

「せんせい、キャップをもってきました。」

といてわたすと、せんせいは

「ありがとう、るなさん、たくさんあるね。」

とにこにこして、うけとりました。

さんすうのじかん、みんなでキャップをかぞえました。

「二、四、六、八、十。」

十二できたら、一つのかたまりにします。そしてまたかぞえたら、七十八もありました。くつばこのところに、エコキャップ入れがあります。そこには、「あなたのキャップがワクチンや車いすになります。」と書いてあります。わたしは、

「ワクチンってなんですか。」

と、せんせいにきいてみたら、

「びょうきにならないためのちゅうしゃだつて。がいこくの子どもたちがたくさんたすかるんだよ。」

と、おしえてくれました。

わたしは、すごいとおもいました。小さいボランティアアだけど、みんなでやれば大きいボランティアになるとおもいました。

ほいくえんほうもん

青森県弘前市岩木児童センター

小学校3年 喜多山 ころろ

わたしは、おおうらほいくえんに行きました。みんなに、かみしばいを読んであげたらみんなが、おもしろくてわらっていました。わたしはうれしくて、もう1回みんなの前でかみしばいをやりたいと思いました。

その理由は、みんながおもしろくてわらってくれるからです。

ボランティアサークルは、毎年あって、ほいくえんほうもんもあります。

わたしは、2年生からボランティアサークルをはじめました。2年生のころは、はずかしくてみんなをえがおにすることがあまりできなかったけど、今、3年生になったら、みんなの前でできるようになって、たのしくなつたので、ボランティアサークルが大すきになりました。

わたしは、みんなをえがおにすることが大事だと思いました。理由は、ボランティアサークルは、みんなをえがおにすることができるサークルにしたいからです。

ピノカーサのしせつもんがおわつたあとおばあちゃんおじいちゃんが、

「これからもボランティアサークルをがんばってね。」
と言ってくれてうれしかったです。

わたしは、みんながよるこんでくれてやってよかったなど思いました。

来年は、4年生になります。4年生になってがんばりたいことは、来年の2年生に、ボランティアサークルは、こうゆうのだよっておしえることをがんばりたいです。

大好きな学校のために

千葉県栄町立布鎌小学校

3年 芳澤 蒼真

ぼくは、布かま小学校が大好きだ。

ある日の朝、学校に行くと、先生たちのげんかんに落ち葉がたくさん落ちていた。

「そういえば、先生が今日はお客さんが来るって言ったな。このまま落ち葉が落ちていたら、お客さんたちにきたない学校だと思われちゃう。そんなのはいやだな。そうだ！」

ぼくは急いで朝のしたくをして外に出た。教室にいた、りと君とひびき君ととうや君もいっしょに外に出てきてくれた。

「よし！落ち葉を集めてきれいにするぞ！」

「おー！」

ぼくたちは竹ぼうきを持って、落ち葉はきを始めた。最初はとても寒かったけど、落ち葉をはくたびに体が少しずつあったまってきた。落ち葉はカサカサ風にふかれてとんでいく。そこで、ぼくたちは考えた。はじめからまん中に向けて、少しずつ落ち葉を集めていった。集めた落ち葉は、ちりとりで取ってリヤカーに

乗せた。このくりかえし。ぼくは、む中でほうきを動かした。すると、校長先生が、

「みんな、ありがとう。とてもきれいになったよ。」

とニコニコ笑顔で話しかけてくれた。ぼくは、ふりかえつてみると、さつきまで落ち葉だらけだった入口がとてもきれいになっていた。

「わあ、落ち葉をかたづけただぞ！これで、お客さんに布かま小学校はきれいな学校だと思ってもらえるぞ！うれしいな。」

ぼくは体だけじゃなく、心までポカポカになってうれしかった。

ボランティアをするって、その場所もピカピカになるだけじゃなくて、心もピカピカになることがわかった。だからこれからも、大好きな布かま小のためにできることを見つけたら進んでお手伝いをしていきたい。

ふれあい活動

千葉県栄町立安食小学校

4年 羽田 航

まず、ぼくは、国際交流や福祉のまちづくりそして募金などの活動にとりくみました。

そしてぼくは、この活動を受けて、この地球にはいろんなひとがいてどんなに言葉が伝えられなくてもそしてどんなしようがいがある人でも同じ人間なのでいろんなことと通じあえるということを学びました。

国際交流では、タイで画家をしている人と英語でしゃべったり、絵の書き方を教わりました。もつと英語を勉強して、絵についてもつと教わりたいと思いました。

また、中国の人にこまやけんだまなどの日本のあそびを教えることができたことがとてもうれしかったです。

ぼくらは中国の人からあそびを教わりたいです。

そのためには中国語を勉強したいと思いました。

ぼくは、国際交流をして世界じゅうの人と関わることはとても大切な活動だと思いました。

それから募金については、少しのお金が地震の災害や水不足になやんでいる人を助けられることができてとてもすごいことだと思いました。

そしてこのようになちよつとしたボランティア活動が大きなことになるといってとても大切なことだということはこの活動でまなんだのこのことをにちじょうにいかしていききたいです。



地いきのはい品回収

千葉県栄町立安食台小学校

5年 帯金 弘

ぼくの地域では、一年に二回、不用品やゴミを集めるはい品回収があります。

低学年は、ゴミぶくろを持って、分別しながら、地域のゴミひろいをします。そして、ぼくたち高学年は、地域の人たちが集めて外にまとめてある、不用品を、軽トラックに乗って、集める作業をします。その作業の中で大変な事は、大きな荷物や、重たいざっしなどを一度軽トラックにつんだ後、回収場所へ、持っていく、もう一度おろしてならべていくことです。

はい品回収が始まる前は、休みの日にゴミ集めなんていやだな。という気持ちがありました。一生けん命作業しているうちに、楽しくなってきた、もつとがんばろうと思う気持ちになりました。

このような活動をする地域は、年々減っています。ぼくたちの地域では、子ども達が集まって、参加する行事がたくさんあるので、いろいろな経験が出来る、うれしいです。一人で何かのボランティアをするのは、むずかしいですが、みんなで何かをすることや、地域がキレ

イになる事は、とてもうれしい事なので、これからも、せっ極的に、地域の行事やボランティア活動に、参加して、地域のまわりをがんばってキレイにしたいと思えます。これをめざして、これからもゴミ拾いなどを、がんばります。地域がキレイになったらいいです。

みんなが平等になるために

福岡県大牟田市立中友小学校

5年 森 桜咲

私たちの学校では、五年生になると「子ども民生委員」になります。地域の高齢者の自宅を訪問したり、運動会に招待したりします。これまで七回「子ども民生委員活動」をしました。それらの活動を通して心がけようと思ったことが二つあります。

まず、一つ目は全体の活動を通して、子どもにも、大人にも、お年寄りにも、だれにでも優しく、明るく接して、みんなが笑顔になるように行動することです。特に、お年寄りが困っていたら、「どうしましたか」や「なにかお困りのことはありませんか」など、子ども民生委員をすることに強くなっていきました。

二つ目は、子ども民生委員になって、絵本教室を通し

て思ったことは、「認知症だから」と言って差別したり、特別扱いをしないということです。

認知症だからと言って差別をされたりする人は、「どうして自分だけ」と思っただけで悲しくなってしまう。たり、ぎもんに思ったりするのは、考えたからです。絵本教室で「うめぼし顔とう・れ・し・顔」という本は主人公「ぼく」のおばあちゃんが認知症としんだんされました。「ぼく」は悲しい気持ちになつたけれど、おばあちゃんを楽しませようとする物語でした。私のおばあちゃんが、もしそうだったらと考えてみると、確かに「ぼく」と同じ気持ちになると思います。それでも、「かわいそう」などと思わずに、普通に接していきたいなど思いました。この子ども民生委員活動を通して、私は「だれにたいして同じように接すること」と「特別扱いをせずに普通に接すること」の二つのことを考えました。そして、差別をしないで、「相手の気持ち」が、まず第一」と言うことを考えて接していくことを決心しました。



私が出来る幸せボランティア

鹿児島県南九州市立中福良小学校

5年 村方 仁美

「さあ、がんばるぞ。」

今日も私は、朝の準備をすませて、校庭に向かいます。

私たちの学校では、毎日、朝活動で、校庭の草取りや落ち葉集めをしています。ボランティア活動をする、とても気持ちがいいです。今日やったボランティアは、草取りです。根っこまでしっかり取りました。とげとげ草は、小さいうちに取らないと、大きくなると、とげが手にささってたいです。校庭の草を取らなかつたら走るときに、転んでしまいます。だから、早く走るためにも草を一生けん命取りました。

「仁美ちゃん、荷物持とうか。」

友達が、よく声をかけてくれます。

「ありがとう。」と、にっこりして私は言います。私は、生まれつき足が悪くて、右足のかかどがつかみません。だから、歩くときにバランスがとれなくなつて転びやすいです。でも、困っていません。学校では、友達が重たい物は持ってくれたり、移動教室の時には、一緒に歩いてくれます。だから、すごく学校が楽しいです。私は、い

ろんな人たちに支えられています。だから、とても幸せです。

私は、自分が出来るボランティア活動をしてみんなも幸せになってほしいと思います。例えば、私が考えた出来るボランティア活動は、くつならべやあいさつ運動で大きな声であいさつをすることで、みんなのたなの整理もできます。まだまだ、考えるところと出来ることがいっぱいです。これからも出来ることを増やして、人の役に立ちたいです。



【中学生賞】 赤い羽根金を通して

千葉県栄町立栄中学校

1年 竹原 花伸

私はボランティア活動をあまりしたことがなく、母の手伝いや小学校の校外清掃もボランティア活動としてピンとこない。草むしりをしてくれたり災害復旧をする人はすごいと思うし偉いと思う。きびしい作業こそがボランティアだと思う。今回、栄中学生会が赤い羽根金をすると聞いた時私は、ボランティア活動が遠い事に思えたが赤い羽根を販売する活動のようで楽しそうだと思いつひやりたいと思った。

当日は、夕方にスーパーの出入り口で生徒会八人で二手にわかれ、募金活動を開始した。最初は生徒会長が大きな声で、

「赤い羽根共同募金にご協力をお願いします。」と言って他の人達は声が小さかったが、生徒会長が言うたびに他の人達の声も少しずつ大きくなり、私も恥ずかしさがなくなっていく。しかし声を出すものの、二、三分に一人程度の募金がやっとだった。羽根を渡せてうれしかったが、こんな人数で大丈夫なのかと不安になっ

た。それからも一生懸命声を出し続けていると人が増え
ひっきりなしに羽を渡した。先輩が持っている募金箱が
重そうだった。

私は募金をしてくださいださった人に対し感謝の気持ちを
「ありがとうございます」と伝えていたが、多くの方々が
「えらいねえ」や「頑張って」という嬉しくなる言葉をか
けて頂いた。募金活動をしたからこそ心の広い人や思い
やりのある人を肌身を感じる事ができ、お金のやりと
りは実は気持ちのやりとりだと分かった。また、根っか
らやさしそうな人もいたが小学生や一見怖そうな人も車
までお金を取りに戻った人など良
い方々がたくさんいて善悪は様々
な人で作られていくことを実感し
た。

被災地に行く方などは本当に大
変なことをされている。私はこの
方達を尊敬し目標にしてこれから
も自分にできるボランティア活動
を行っていきたいと思う。



感動したこの活動

千葉県栄町立栄中学校

2年 泉原 心菜

私は、ボランティアの経験がありません。地域でよく
ボランティア募集がかかっており私の友達をよくそのボ
ランティアに参加しています。私はすごいなと思うだけ
でボランティアには無関心でした。

私は、生徒会本部として活動しています。そこで初め
て赤い羽根募金のボランティアに参加することになりました。
初めは少し嫌でした。皆でお揃いの赤いウィンド
ブレーカーを着て、募金箱とティッシュを持って活動す
る、とても恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。

恥ずかしくて下を向いていると隣にいた友達が、笑顔
で「赤い羽根募金です。ご協力お願いします。」と大きな
声で叫んでいました。そしたらほかの友達も叫び始め、
募金に協力してくれる方が多くなっていきました。

私は、すごいなと思いました。みんなで一丸となって
声を出すと初めは、五円、十円くらいしか無かったのが、
底が見えなくなるまでにお金が貯まっていったことがす
ごいと思いました。

私も大きな声を出してみようと勇気を出して呼びかけ

ると募金に協力してくださったおじさんが「笑顔も声も素敵だね。がんばってね。」と言ってくださったりとても気持ちが出るようになったような気がしました。

そこで私は、感じたことがあります。何事にもチャレンジすることで自分が少しずつ成長していき、きちんと責任を持つて最後までやりとげることが出来ることを感じました。

これから、嫌な事、苦手な事たくさん出てくると思います。なので私は、このボランティアで学んだ事をいかし、ただこなすのではなく自分やほかの人々に利益があるように自分から進んでチャレンジをしようと思えるようになりました。

なので、ボランティアなどに積極的にやろうと思えます。今回のボランティアで自分が一つ成長したと思えました。

ボランティアを通して

東京都世田谷区立用賀中学校

3年 伊藤 日和

私は「泉の家」という福祉施設で「オーブンザドア」というお祭りと生活介護のボランティア活動を行いました

た。「オーブンザドア」では車いす体験の受付や「泉の家」に通う方と一緒にまわりました。生活介護では「泉の家」に通う方たちと一緒にお話をしたり、レクリエーションをしたりしました。

これらの体験を通して私が成長したと思うことは二つあります。一つ目はコミュニケーション能力の向上です。私は今まであまり自分から積極的に人に声をかけることはありませんでした。しかし「オーブンザドア」で受付をやったことや「泉の家」に通う方たちとの交流で自分から話しかけることや、相手が理解しやすい言葉を使うことの大切さを知りました。今は、初めて会った人に対して自分から声をかけて交流することが増えました。そしてそれが自信につながっています。

二つ目は物事に対する視野が広がったことです。「泉の家」の生活介護に通う方の中には車いすを使って生活をしている方がいます。そのため生活介護で行うレクリエーションでは車いすの方も一緒にできることをしたり、ルールを工夫したりしていました。学校の公民の授業で「ノーマライゼーション」について学び「みんなができる」ことの大切さは知っていましたが、実際にそのような工夫がされているものに参加したことにより深く考えるよ

うになりました。もし次に何かを企画し行うときにはこれを忘れずに考えていきたいと思えます。

私にとって今回のボランティアは様々なことを体験し知ることができたとともに、とても楽しいものでした。

普段あまり交流することのない方々とたくさんお話をし相手の好きなことや得意なことを教えてもらい、笑い合うことのできた日々でした。来年もまた「泉の家」でボランティア活動をもっとたくさんさんの事を学びこれからに生かしていきたいです。



【高校生賞】

ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

大分県立佐伯豊南高等学校

2年 鳴海 孝吾

私は高校二年生の夏に祖母の家の地域であった清掃活動に参加しました。その活動ではまずゴミ拾いを二時間ほどやった後に昼ご飯を参加した人達で食べました。そこで学んだことが二つありました。

それは地域のつながりです。私が体験した清掃活動は数人では絶対に出来なかったと思います。人が多ければ多いほど短い時間で多くのゴミを拾えるし、多くのコミュニケーションが生まれるでしょう。そのコミュニケーションというつながりを生かしている人もいれば、そのつながりに心の面で助けられた人も中にはいるでしょう。なので、これからも地域の人とのつながりを大切にしていきたいです。

そして、もう一つはボランティアの意味です。私はボランティアは一つの目的を参加者全員で達成するだけのものだと思っていました。おそらくほとんどの人がそうでしょう。しかし、それは違います。ボランティアとは目的を達成するためにどうすればよいか、どう動けばい

いかを、参加者全員で考え、その意見を交えてやっていくことです。つまり、ぼーっとしていても目的は達成されないのです。一人一人が考えて動き、コミュニケーションをとりながら活動することが大切なのです。

私が自分で成長したなと思うことは、この二つのことに気づけボランティアについて考えれたことです。もし、これから先ボランティアに参加することがあれば今回気づいた二つのことを思い出して活動したいと思います。

デイサービスで得た事・気づいた事

東京都立稔ヶ丘高等学校

3年 針生 夢生

私は地元にある地域のデイサービスで、毎週土曜日に十時三十五分から十二時までボランティアを行っていました。その活動の中で私は、介護士になる為に勉強することとが沢山あり得た事もありました。ボランティア初日はとても緊張し、どう動けば良いか分からずとまどいましたが回数を重ねていくにつれて自分から動けるようになりました。そして利用者さんも私の苗字を覚えて下さり「針生さん、おはよう。今日もいい天気ねえ。」と言ってくださるようになりました。さらに帰る時間になると「も

う帰るの？まだ居て欲しいわ。」と言って下さりとても嬉しかったです。

気づいた事は、朝の会の時に、職員さんは、何月何日何曜日ですかと利用者さんに聞き、日付けを思い出してもらったり、時事ネタを出して、共通・共感が出来る話題を話したり、高校の授業で習ったユマニチュードを使ったりしていました。また、職員さん方は、常に目くばせをしており、何かあったらすぐに駆けつけられるようにしていました。そこで私が得た事は、常に利用者さんが安全で安心して一日をデイサービスで過ごす事が出来るのかを考えたり、今利用者さんが出来る事を自分のペースで出来るようにして考えるということです。

私はボランティアを通して、増々介護福祉士になりたいという気持ちになりました。またボランティアをしていて、とても感謝される事が嬉しくまた次の週も頑張ろうという気持ちになりました。そして毎週行くたびに、信頼関係が出来たり、私のひいおばあちゃんと同郷の方とお話を聞き、あれが美味しかった、あそこへ行った等昔話を華をさかせたりして、楽しくボランティアができます。私は将来笑顔で接する事の出来る介護士を目指しているの今、ボランティアをしているのは実習をする

前にお年寄りと接したり出来たのは私にとってかけがえのない物になりました。これからもボランティアしたいと思いました。

子どもとの触れ合いを通して得たこと

東京都立穂ヶ丘高校

3年 山内 麻央

私は、高校の近くにある乳児院で二年間ボランティアをしていました。乳児院には零歳〜五歳の子たちがいます。その子ども達の年齢によって遊びの内容が違い、とてもおもしろかったです。零歳の子の遊びは主に「音が鳴るおもちゃ」や「光るおもちゃ」でした。一歳〜二歳の子たちの遊びは主に、「おもちゃの携帯」や「ぬいぐるみ」で遊んでいました。三歳〜四歳は、「おままごと」や「ヒーローごっこ」、「ミニカー」等のおもちゃで遊んでいました。五歳の子たちは、本を読んだり、すべり台等の遊具で遊んでいました。

私は、ボランティアをしているときに驚いたことがあります。それは「子どもの成長」です。私は、毎週木曜日にボランティアをしていたのですが、私が用事で行けなくなつた際お休みを頂いた時、その次の週にボランテ

ィアに行くと、一週間前は言葉を話せなかったり、歩けなかったり、つかまり立ちだったり、寝返りを打てなかったりしていた子が一週間経つと、出来なかったことが出来るようになっていて子どもの成長はすごいなと思いました。そして月日が経ち、遊びの種類が増え「あんな遊びが出来るようになったんだ」と思うことがたくさんありました。

私がボランティアをしていて得たこととはたくさんあります。その中から二つ紹介します。まず一つ目は、「自分から進んで話しかける」です。私はあまり初対面の人に自分から話せないのですが、子どもたちは、自分からたくさん話しかけてくれ、私はとても嬉しかったです。二つ目は、「何でもめんどくさがらずに率先して行動する」です。私たちは、何かあるとすぐ「めんどくさい」と言いますが、子どもたちの成長を見ていたら子どもは毎日一分一秒成長している。だが、私たちは「めんどくさい」の一言で時間を無駄にしているなと思いました。

私は、ボランティアをして得たことや時間を大切にし、これからに役立てたいと思えました。



平成30年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト
 学校147校・9団体
 参加児童・生徒数41,439人

1	北海道	千歳市立向陽台小学校
2	青森県	弘前市岩木児童センター
3	岩手県	盛岡市立月が丘小学校
4		盛岡市立厨川中学校
5	宮城県	仙台市立七北田小学校
6		鹿角市立花輪小学校
7		鹿角市立花輪北小学校
8		鹿角市立平元小学校
9		鹿角市立十和田小学校
10		鹿角市立栄広小学校
11		鹿角市立大湯小学校
12		鹿角市立草木小学校
13		鹿角市立尾去沢小学校
14		鹿角市立八幡平小学校
15		鹿角市立花輪第一中学校
16		鹿角市立花輪第二中学校
17		鹿角市立十和田中学校
18		鹿角市立尾去沢中学校
19		鹿角市立八幡平中学校
20		山形県最上郡鮭川村立鮭川小学校
21		山形県最上郡鮭川村立鮭川中学校
22		青少年地域ボランティアサークル「SAKEKKO」
23		山形県新庄市立新庄中学校
24		山形県立高島高等学校
25		山形県立山辺高等学校
26		山形県舟形町立舟形小学校
27		山形県舟形町立舟形中学校
28		青少年地域ボランティアサークル「ふなっ子」
29		棚倉町立近津小学校
30		棚倉町立社川小学校
31		棚倉町立高野小学校
32		棚倉町立棚倉小学校
33		棚倉町立山岡小学校
34		棚倉町立棚倉中学校
35		茨城県水戸市立河和田小学校
36		つくば市立蓬崎第一小学校
37	埼玉県	FA 春日部市立豊春中学校
38		栄町社会福祉協議会
39		栄町立鎌小学校
40		栄町立安食小学校
41		栄町立安食台小学校
42		栄町立竜角寺台小学校
43		栄町立栄中学校
44		市原市立青葉台小学校
45		千葉県立京葉高等学校
46		品川区立小中一貫校荏原平塚学園
47		品川区立品川学園
48		品川区立城南小学校
49		FA 品川区立荏原第五中学校
50		目黒区立中目黒小学校
51		目黒区立第八中学校
52		世田谷区立瀬田中学校
53		世田谷区立用賀中学校
54		杉並区立西田小学校
55		尾久六にこにこくーる
56		板橋区立舟渡小学校
57		板橋区立高島第二小学校
58		板橋区ジュニアリーダー会
59		ITABASHI高平ボランティアワークショップ
60		練馬区立旭丘小学校
61		葛飾区立中川中学校
62		江戸川区立鹿骨小学校
63		昭島市立つつし丘南小学校
64		小平市立小平第五小学校
65		小平市立小平第八小学校
66		小平市立小平第十小学校
67		小平市立小平第十四小学校
68		小平市立学園東小学校
69		小平市立花小金井南中学校
70		東大和市立第三中学校
71		FA 武蔵村山市立第一中学校
72		FA 武蔵村山市立小中一貫校村山学園
73		西東京市立田無第二中学校
74		東京都立文京高等学校
75		東京都立南大沢学園
76		東京都立六本木高等学校
77		東京都立緑ヶ丘高等学校
78		東京都立練馬高等学校
79		東京都立葛飾総合高等学校
80		東京都立東久留米総合高等学校(定時制)
81		横浜市立岡村小学校
82		横浜市長瀬南中学校
83		神奈川県立新井高等学校
84		湘南国際アカデミー一高第3部
85		NPQ法人明華377ネット・みずな・学習支援7077みずなネット

85	新潟県	FA 柏崎市立比角小学校
86		FA 柏崎市立第二中学校
87		FA 新潟県子ども会連絡協議会
88		FA 関市立金童小学校
89		FA 関市立小金田中学校
90		関市立武芸小学校
91		FA 関市立武儀東小学校
92		関市立武儀西小学校
93		関市立富野中学校
94		関市立笹取川中学校
95		FA 関市立上之保小学校
96		FA 関市立津保川中学校
97		袋井市立袋井南中学校
98	静岡県	FA 松原市立松原第五中学校
99	高知県	FB 高知県立高知東高等学校
100		小郡市立味坂小学校
101		小郡市立小郡小学校
102		小郡市立御原小学校
103		小郡市立石立小学校
104		小郡市立三国小学校
105		小郡市立大原小学校
106		小郡市立東野小学校
107		小郡市のそまが丘小学校
108		小郡市立宝城中学校
109		小郡市立大原中学校
110		小郡市立石中中学校
111		小郡市立小郡中学校
112		小郡市立三国中学校
113		福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
114		語る隣組
115		大牟田市立みなと小学校
116		大牟田市立天領小学校
117		大牟田市立駿馬小学校
118		大牟田市立元の原小学校
119		大牟田市立玉川小学校
120		大牟田市立大牟田中央小学校
121		大牟田市立大正小学校
122		大牟田市立中友小学校
123		大牟田市立明治小学校
124		大牟田市立白川小学校
125		大牟田市立高平小学校
126		大牟田市立高取小学校
127		大牟田市立三池小学校
128		大牟田市立羽山台小学校
129		大牟田市立銀水小学校
130		大牟田市立上内小学校
131		大牟田市立吉野小学校
132		大牟田市立倉永小学校
133		大牟田市立手鎌小学校
134		大牟田市立宮原中学校
135		大牟田市立松原中学校
136		大牟田市立白光中学校
137		大牟田市立藤中学校
138		嬉野市立久間小学校
139		嬉野市立大野原小学校
140		嬉野市立大野原中学校
141		嬉野市立吉田中学校
142		神埼市立神埼小学校
143		神埼市立西郷小学校
144		神埼市立吾振小学校
145		神埼市立千代田西部小学校
146		神埼市立千代田中部小学校
147		神埼市立千代田東部小学校
148		神埼市立仁比山小学校
149		神埼市立神埼中学校
150		神埼市立吾振中学校
151		神埼市立千代田中学校
152	長崎県	対馬市立仁田小学校
153	大分県	大分県立佐伯豊南高等学校
154		南九州市立中福良小学校
155	鹿児島県	鹿児島県立川辺高等学校
156	沖縄県	沖縄県立中部農林高等学校

○ふれあいボランティア(FA)/フレンズ(FA/FB)
 (FA):教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポートを使用して参加したいです。
 (FB):ふれあいボランティアパスポート種を使用せず、申込時の参加人数を寄付団体数で分けて、寄付のみに参加したいです。
 ◇教育委員会やとりまとめ団体
 管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめ、参加したいです。

後援：日本教育新聞社

平成 30 年度ふれあいボランティア活動感想文集
平成 31 年 3 月発行

認定NPO法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 5 階

認定NPO法人さわやか青少年センター事業所

TEL：03-6279-9236 FAX：03-6279-9256

URL：http://www.ssc-npo.or.jp / E-mail：info@ssc-npo.or.jp